

1 つぎの おはなしを よんで もんだいに こたえましょう。

空にうかが雲は、ふわふわしているように見えませんが、じつはとても小さな水のつぶや氷（こおり）のつぶがたくさんあつまってできています。日が出ているとき、川や海、池の水は太ようの光であたためられ、水の水つぶが目に見えないじょう気になって空へのぼっていきます。

じょう気は、空の上のつめたい空気にふれると、すこしずつ水の水つぶにもどります。小さな水の水つぶがたくさんあつまると、白い雲ができるのです。風がふくと、雲はうごきながら、空のいろいろなばしょにひろがっていきます。

やがて、雲の中の水の水つぶどうしがぶつかりあって、だんだん大きくなっていきます。小さな水の水つぶが百、千とあつまって、大きく重たくなると、空にうかんでいられなくなり、地上におちてきます。これが「雨」です。

あたたかい日には、「雨はし」とやさしくふり、草や花をうるおします。つめたい日や山の上では、雨のかわりに雪やこおりのつぶになることもあります。つよい風をとまうときは、雨の水つぶが大きくはやくおちるので、かさをしっかりとちましよう。

雨がふると、水は土にしみこみ、井戸や川の水をふやします。しみこんだ水は少しずつしみ出して川にあつまり、やがて海へもどります。海の水はまた太ようにあたためられてじょう気になり、もういちど空へのぼります。雨は、この水のめぐりをつなぐ大切なひと区間（くかん）なのです。



(1) 空の雲は、何がたくさんあつまってできていますか。正しい番号に○をつけましょう。

- ① 花のかふん
- ② ひかり
- ③ 小さな水や氷のつぶ。

(2) つぎの(①)と(②)にあてはまることばを、本文からぬき出して書きましょう。

雨は小さな水の水つぶが百、千とあつまって、(①) になると、空にうかんでいられなくなり、(②) におちてきたもの。

- ① ()
- ② ()

(3) つぎのことがらを、本文の起こるじゅんばんに①〜④でならべましょう。

- ① 雨が土にしみこみ、川にあつまって海へもどる
- ② 川や海の水があたためられてじょう気になる
- ③ 水の水つぶが大きく重くなっておちる(雨)
- ④ じょう気がつめたい空気で水の水つぶにもどり、雲ができる



1 つぎの おはなしを よんで もんだいに こたえましょう。

空にうかが雲は、ふわふわしているように見えませんが、じつはとても小さな水のつぶや氷（こおり）のつぶがたくさんあつまってできています。日が出ているとき、川や海、池の水は太ようの光であたためられ、水の水つぶが目に見えないじょう気になって空へのぼっていきます。

じょう気は、空の上のつめたい空気にふれると、すこしずつ水の水つぶにもどります。小さな水の水つぶがたくさんあつまると、白い雲ができるのです。風がふくと、雲はうごきながら、空のいろいろなばしょにひろがっていきます。

やがて、雲の中の水の水つぶどうしがぶつかりあって、だんだん大きくなっていきます。小さな水の水つぶが百、千とあつまって、大きく重たくなると、空にうかんでいられなくなり、地上におちてきます。これが「雨」です。

あたたかい日には、「雨はし」とやさしくふり、草や花をうるおします。つめたい日や山の上では、雨のかわりに雪やこおりのつぶになることもあります。つよい風をとまうときは、雨の水つぶが大きくはやくおちるので、かさをしっかりとちましよう。

雨がふると、水は土にしみこみ、井戸や川の水をふやします。しみこんだ水は少しずつしみ出して川にあつまり、やがて海へもどります。海の水はまた太ようにあたためられてじょう気になり、もういちど空へのぼります。雨は、この水のめぐりをつなぐ大切なひと区間（くかん）なのです。



(1) 空の雲は、何がたくさんあつまってできていますか。正しい番号に○をつけましょう。

- ① 花のかふん
- ② ひかり
- ③ 小さな水や氷の水つぶ。

(2) つぎの(①)と(②)にあてはまることばを、本文からぬき出して書きましょう。

雨は小さな水の水つぶが百、千とあつまって、(①)になると、空にうかんでいられなくなり、(②)におちてきたもの。

- ① (大きく重たく)
- ② (地上)

(3) つぎのことがらを、本文の起こるじゅんばんに①〜④でならべましょう。

- ① 雨が土にしみこみ、川にあつまって海へもどる
- ② 川や海の水があたためられてじょう気になる
- ③ 水の水つぶが大きく重くなっておちる(雨)
- ④ じょう気がつめたい空気で水の水つぶにもどり、雲ができる

(② ↓ ④ ↓ ③ ↓ ①)